

第1学年 第3時指導案【群馬の農業】

1. ねらい

群馬の農業の主役を考える活動を通して、資料を的確に読み取り、群馬県の農業の概要について理解する。

2. 準備

[教師] 副読本 地図帳 資料プリント ワークシート パソコン プロジェクター

[生徒] 副読本 地図帳 自己評価カード

3. 展開

生徒の学習活動	支援、指導上の留意点	時間
<p>「孺恋村の高原キャベツ物語」を聞いたり、文書資料を読み取ったりすることで、農業は気候や地形などの自然条件や消費傾向などの社会条件に左右されることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然条件に合わせて、生産の工夫をしている ・たくさん作りすぎでもダメで、苦労がある 	<p>「孺恋村の高原キャベツ物語」は自作し、写真を提示しながら、教師が話をしていく。孺恋村のキャベツ作りは高原の冷涼な気候となだらかな地形を利用していること、大消費地に近いため新鮮なものがたくさん出荷できること、農家の絶え間ない工夫と苦労があること等を説明する。</p>	10
<p>主題図やグラフなどの資料、副読本などの文書資料から、群馬県の農業の特色を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬といえば..... キャベツ ネギ キュウリ コンニャク ウメ 等 ・群馬県では、田よりも畑の面積の方が多い ・中毛や西毛では、畜産の生産額が一番高い ・養蚕の生産額が、かなり減った ・群馬県で一番生産されているのは豚だ ・群馬県のシェアが一番大きいのは、蒟蒻芋だ 等 	<p>生活経験や知識も動員して を考えさせる。そのために、群馬県の農産物といえば何か聞き、想起させておく。</p> <p>統計のグラフ資料は、タイトル、年、単位など基本的な事柄を押さえながら読み取りをさせる。一問一答式で読み取りをさせ、特色を理解させる。</p> <p>興味・関心を高めるため、個別農産物出荷額上位10品を予想させてから資料を提示する。</p> <p>県の主な農産物の生産条件が分かるような資料を用意する。環境条件と農産物には関連があることを押さえる程度にし、深入りはしない。</p>	30
<p>群馬県の農業の主役は、畜産だろうか？野菜作りだろうか？</p>		
<p>群馬県の農業の主役は何か、討論をする。</p> <p>[畜産]・生産額が大きい ・個別品目でも豚が1位だ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前橋やその周辺で豚の生産が多い <p>[野菜]・コンニャクは国内シェアが圧倒的だ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国シェアは、野菜の方が大きい <p>[果物]・山地が多く、栽培に向いているから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅しばが全国で売られているから <p>[米作]・主食だから ・たくさん作っているから</p>	<p>主役は畜産、野菜作り、果物作り、米作りの中から選ばせる。プリントに自分の意見とその根拠を書き、立場を明確にしてから、4人程度のグループ内で討論をさせる。討論では、結果よりも過程を重視する。様々な考え方を認め合い、根拠を大切にすることを言うことが大切であることを事前に説明する。</p> <p><u>【評価】資料を的確に読み取る</u> <u>(ワークシート・観察)《資》</u></p>	
<p>本時の学習を終了した時点での「群馬県はどんなところ」を考えて書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豚や牛乳など、畜産が盛ん ・キャベツやキュウリなど、よく食べる野菜をたくさん生産している ・畜産も野菜作りも盛んで、すき焼きがおいしく食べられる 	<p>主に農業の面から見た群馬県について書かせる。討論の結果や、そのとき考えたことも盛り込んで書かせる。</p> <p><u>【評価】農業の概要を理解する</u> <u>(自己評価カード、ワークシート)《知》</u></p>	5

孀恋村の高原キャベツ物語

昭和の初めまで、孀恋村のおもな作物といえば、自分たちが食べる分の雑穀と馬鈴薯だけだった。北海道旭川にも匹敵する寒さのきびしい気候から、米作りは思うようにはならなかった。養蚕(カイコを育てマユを作る)県群馬にありながら桑の葉が霜や雹の害にあいやすく、それだけで食べていくことはできなかった。炭焼きや山仕事、女の人のかせぎの収入もたかがしれており、「日本一の()村」と自分で自分のことをバカにする村人もいた。しかし、その言葉のウラには「何とか生活していく方法を考えなければ」という強い思いがあった。

群馬の平野部から遠くはなれた孀恋村にほかの都市へと通じる大きな道路がつけられた。昭和8(1933)年のことだった。「これで換金(売ってお金になる)作物ができるぞ」村に一つの希望がわいた。それと同じころ、長野県上田の青果(野菜や果物)問屋の青木彦治が孀恋村の風土に目をつけた。「孀恋村の気候は、ほかの作物には向かなくてもキャベツ栽培には適している」と直感し、「みんな、キャベツ栽培を始めよう」と農民に語りかけた。孀恋のキャベツは明治時代の末に試験的に取り入れられたものの、運ぶ手段がなく、長い間自分たちが食べるためにだけに栽培されていた。青果業界実力者の青木は種子や道具を多くの農家に貸し付け、とれたキャベツはすべて買い上げた。キャベツは鳥居峠から長野県を通り、京都や大阪の周辺に出荷された。

キャベツは理想的な高冷地作物だった。孀恋の畑の標高は1000mから1400mにある。寒さと暑さの差が大きく、雨が多い気候、そして水はけのよい土地。そこからは、繊維が細かく甘みのあるおいしいキャベツがとれる。
『群馬のプロジェクト』(ぷらざマガジン社 2002)より自作

孀恋村で、キャベツがたくさん作られる理由

(1) 夏の涼しい気候

- ・キャベツは気温15~20 よく育つ
- ・標高700~1400mの高原にあり、夏の気温が15~20
- ・他の産地はあつくなり、夏の栽培ができない

(2) なだらかな地形

- ・なだらかで広い土地がある
- ・さらに道路や畑の整備がされた機械の導入や出荷がしやすくなった

(3) 大消費地に近い

- ・野菜は新鮮さが大事
- ・東京や横浜などの大消費地に近い
- ・日本列島のほぼまん中にあり、他の消費地も近い

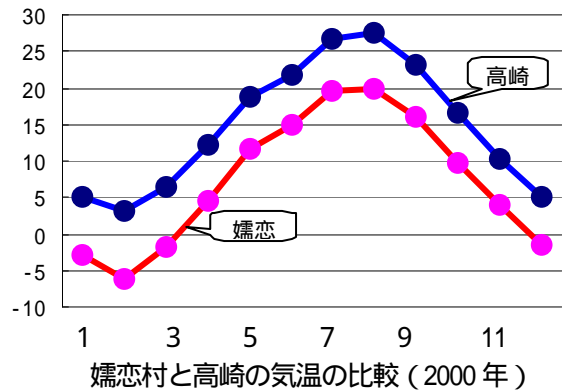
(4) おいしく作る工夫

- ・化学肥料をあまり使わない(フェロモン剤などを使用)
- ・孀恋村での生産に適すような品種改良
- ・予冷庫で冷やし、冷蔵コンテナ車などで新鮮なまま出荷

(5) キャベツ作りの苦勞

- ・去年は浅間山の噴火で灰が降り、出荷できなかった
- ・たくさんとれすぎると、値段が下がるので、出荷せず、くさらせたり捨てたりする(出荷調整)
- ・「朝切り」といって、キャベツの収穫は、朝の暗いうちから始まる。包丁で一つ一つていねいに収穫する

孀恋村と県内他地域の標高(G-takより)






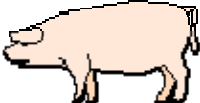
(気象庁、高崎中央消防署資料より)

キャベツの地域別出荷先
(孀恋村資料 年度不明)

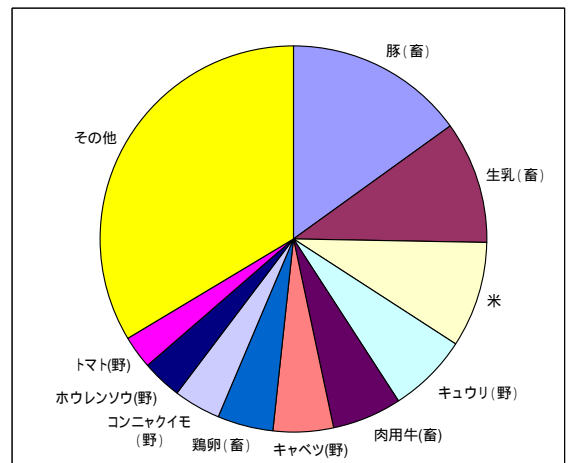
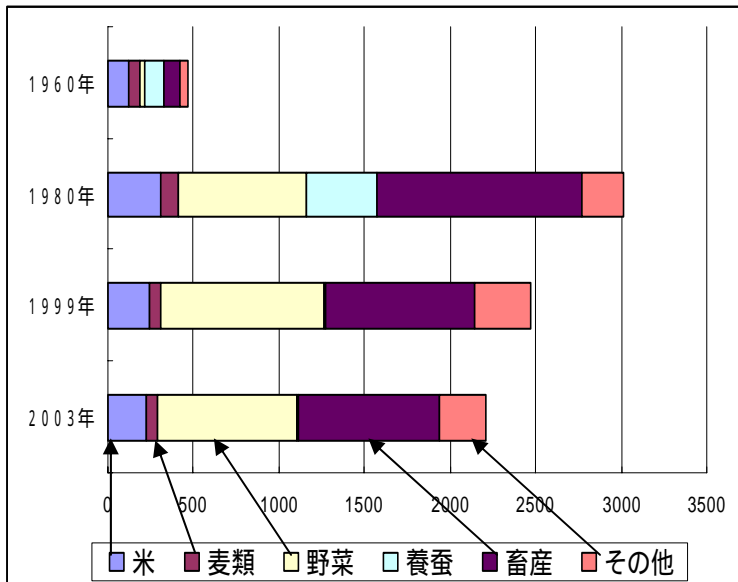
CD-ROM『のびゆく2005』より
画像挿入

G-takより
「904 孀恋と各地の標高の比較.gif」
を挿入

群馬県で作られる野菜と自然環境

 <p>ウメ</p>  <p>ナシ</p>	<p>【果物】 果樹が、出荷できるように育つまでの時間がかかるので、産地は変わりづらい。日当たりや水はけがよく（山の斜面など）、温度差が大きいところに向いている。</p> <p>リンゴ 標高 400～600m。平均気温が 9～13、夏の平均気温が 26 を超えないところ、比較的寒いところに向いている。県内では利根・沼田、吾妻。</p> <p>ナシ 日当たりがよく、水はけもよい、榛名町や前橋市が主な産地。</p> <p>ブドウ 日がよく当たり、雨が少ないところに向いている。榛東村や吉岡町など。</p> <p>ウメ 榛名山麓の榛名町や箕郷町、丘陵の安中市など。</p> <p>温暖な地域（年平均 15 以上、最低気温が - 5 を下回らない）で作られるミカンの栽培北限地が鬼石町。</p>
 <p>コンニャクイモ</p>	<p>【野菜】</p> <p>コンニャクイモ こんにゃくいもは、水はけのよい山の斜面で作られる。成長するのに時間がかかり 3、4 年かけて育てる。寒さに弱いので、春に植えたこんにゃくいもを秋に収穫し、暖かいところで保管した後、また春に植える、という作業をくりかえす。他の野菜も、気温や土壌などの条件を生かした栽培をしている。その土地でしかとれない野菜もある。下仁田町で作られる「下仁田ネギ」もその一つ。「殿様ネギ」ともよばれる。肉質は柔らかで、火を通すとトロツとした食感と甘みが際立つ高級品。</p>
	<p>【畜産】 飼うための広い土地の確保できる場所、においが出るので民家が集中していない場所が適している。</p>

群馬県の農作物生産額の比率



①個別農産物構成比(2004年農業出荷額)

②群馬県農業出荷額の変化(小林作成)

	米	麦類	野菜	養蚕	畜産	その他	合計
1960年	125	58	32	112	94	46	467億円
1980年	310	105	743	415	1195	241	3009億円
1999年	245	64	954	10	870	329	2472億円
2003年	224	68	816	7	826	269	2210億円

群馬県の農産物といえば、何か？

統計資料を読み取ろう！（副読本 p 6 , 7 ）

1. 1960年と2002年を比べて、生産の割合が減っているのは、

米と()と()。 参照資料()

2. 群馬県のシェアが大きい農産物は()と()。

参照資料()

3. 以外で、群馬県が1位なのは()と()

参照資料()

4. 群馬県のキャベツの出荷が多いのは、()月～()月。 参照資料()

5. こんにゃくいもは、(漢字2文字)でとれる。 参照資料()

農産物生産額トップ10を予想しよう！

A.～H.の記号を書いてください。表の上を書いてある数字は順位です。2つは、どこにも入りません。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
				肉用牛		鶏卵		ほうれん草	トマト

A. こんにゃくいも B. キャベツ C. キュウリ D. まゆ E. 豚 F. 米 G. 生乳 H. ナシ

群馬の農業の主役は何だろうか？

- 1 . 畜産 2 . 野菜作り 3 . 米作り 4 . 果物作り

選んだ理由